【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成29年11月2日(2017.11.2)

【公表番号】特表2016-535029(P2016-535029A)
【公表日】平成28年11月10日(2016.11.10)
【年通号数】公開・登録公報2016-063
【出願番号】特願2016-526303(P2016-526303)
【国際特許分類】
Ｃ０７Ｃ　67/60　　(2006.01)
Ｃ０７Ｃ　69/28　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０７Ｃ　67/60
Ｃ０７Ｃ　69/28

【誤訳訂正書】
【提出日】平成29年9月20日(2017.9.20)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】０００７
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【０００７】
エチレングリコール及び脂肪酸からのエステルも含む、多価アルコールのエステルを製造するための、及び選択された代表的なこれらの化合物クラスの特性は、Ｇｏｌｄｓｍｉｔｈ，Ｐｏｌｙｈｙｄｒｉｃ Ａｌｃｏｈｏｌ Ｅｓｔｅｒｓ ｏｆ Ｆａｔｔｙ Ａｃｉｄｓ，Ｃｈｅｍ．Ｒｅｖ．３３，２５７ｆｆ．（１９４３）（非特許文献３）中に見出される。例えば、ジエチレングリコール、トリエチレングリコール及びポリエチレングリコールのエステルは、２．５～８時間の反応時間にわたり、１３０～２３０℃の温度で製造される。多価アルコールのエステル化に適切な触媒としては、無機酸、酸性塩、有機スルホン酸、塩化アセチル、金属又は両性金属酸化物が挙げられている。反応水の除去は、例えば、トルエン又はキシレンのような添加溶剤を用いて、又は二酸化炭素又は窒素のような不活性ガスを導入することによって行われる。
【誤訳訂正２】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００２７
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００２７】
エステル化は、化学量論量のポリオール及び脂肪族モノカルボン酸によってなすことができる。しかしながら、好ましくは、ポリオールを、一般には使用するポリオールより低い沸点を有し、かつ、その後の粗製エステルの後処理時に、簡単な方法で蒸留によって除去できる過剰のモノカルボン酸と反応させることができる。脂肪族モノカルボン酸は、ポリオールのエステル化されるべきヒドロキシル基１モル当たり１０～５０％モル過剰、好ましくは２０～４０％モル過剰で使用される。
【誤訳訂正３】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００３１
【訂正方法】変更
【訂正の内容】

【００３１】
しかしながら、反応を促進し反応速度を高める触媒の使用を常に避けることはできない。通例のエステル化触媒、例えばブレンステッド酸、例えば硫酸、メタンスルホン酸、パラ－トルエンスルホン酸の他に、特に、元素の周期表の第４族から第１４族までの少なくとも一種の元素を含有するルイス酸が有用であり、これらは固体形態又は液体形態で使用することができる。本発明の意味において、ルイス酸とは、一般に、そのような元素又は化合物の通常の定義であると理解され、これは、例えば、Ｒｏｅｍｐｐ’ｓ Ｃｈｅｍｉｅ－Ｌｅｘｉｋｏｎ，８．Ａｕｆｌａｇｅ，Ｆｒａｎｃｋ’ｓｃｈｅ Ｖｅｒｌａｇｓｈａｎｄｌｕｎｇ １９８３，Ｂａｎｄ３，Ｈ－Ｌにおいて説明されるような電子のギャップを有する。エステル化反応における触媒として使用できるルイス酸として特に好ましいものとしては、チタン、ジルコニウム、ハフニウム、鉄、亜鉛、ホウ素、アルミニウム又はスズが挙げられ、これらは、微細に分割された形態か又は好ましくは化合物の形態における元素として使用される。適した化合物は、例えば、酸化スズ（ＩＩ）、酸化スズ（ＩＶ）、カルボン酸スズ、例えば、スズ（ＩＩ）－２－エチレンヘキサノエート、シュウ酸スズ（ＩＩ）、酢酸スズ（ＩＩ）又は酢酸スズ（ＩＶ）、スズ（ＩＶ）アルコラート、例えば、テトラ（メチル）スタナート、テトラ（エチル）スタナート、テトラ（プロピル）スタナート、テトラ（イソプロピル）スタナート又はテトラ（イソブチル）スタナート、又は有機スズ化合物、例えば、ブチルスズマレエート又はジブチルスズジラウレートである。適したチタン化合物としては、アルコラート、例えば、テトラ（メチル）オルトチタナート、テトラ（エチル）オルトチタナート、テトラ（プロピル）オルトチタナート、テトラ（イソプロピル）オルトチタナート、テトラ（ブチル）オルトチタナート、テトラ（イソブチル）オルトチタナート、テトラ（ペンチル）オルトチタナート又はテトラ（２－エチルヘキシル）オルトチタナート；アセチレート、例えば、ヒドロキシチタンアセテート、ヒドロキシチタンブチラート又はヒドロキシチタンペンタノエート；カルボキシレート、例えば、チタン（ＩＶ）－アセテート、チタン（ＩＶ）－プロピオナート、チタン（ＩＶ）－ブチラート、チタン（ＩＶ）－ペンタノエート又はチタン（ＩＶ）－２－エチルヘキサノエート；又はキレート、例えば、テトラエチレングリコールチタナート又はテトラプロピレングリコールチタナートが挙げられる。適当なジルコニウム化合物又はハフニウム化合物も良好に使用でき、例えば、テトラ（メチル）オルトジルコナート、テトラ（エチル）オルトジルコナート、テトラ（プロピル）オルトジルコナート、テトラ（イソプロピル）オルトジルコナート、テトラ（ブチル）オルトジルコナート、テトラ（イソブチル）オルトジルコナート、テトラ（ペンチル）オルトジルコナート又はテトラ（２－エチルヘキシル）オルトジルコナートである。同様に、ホウ酸並びにホウ酸エステル、例えば、ホウ酸トリメチルエステル、ホウ酸トリエチルエステル、ホウ酸トリプロピルエステル、ホウ酸トリイソプロピルエステル、ホウ酸トリブチルエステル又はホウ酸トリイソブチルエステルが適している。